

## アミノ酸比率法による愛媛甘とろ豚専用飼料の開発

○宇都宮昌亀、今井士郎

愛媛県畜産研究センター

【目的】県内銘柄豚を代表する愛媛甘とろ豚（甘とろ豚：LWY種）は、専用飼料を用いた長期飼育によって良質な肉質を保持しているが、近年の配合飼料価格の高騰・高止まりは生産農家の経営を圧迫している。そこで、成長を低下させず筋肉内脂肪含量を高めるアミノ酸比率法（Lys/CP）により、粗タンパク質（CP）含量とリジン（Lys）比率を調整し、肉質を維持しつつ生産性を改善する新たな専用飼料を検討する。

【試験方法】供試豚はLWY種を用い、専用飼料に切り替える生体重60kgから出荷（110kg以上）までを試験期間とし、試験区は供試飼料によって3区（慣行区、試験①区、試験②区）を設定し、各区5頭（去勢2頭、雌3頭）を群飼した。供試飼料は、慣行（CP11.2%、Lys0.41%、Lys/CP：0.037）に対し、試験①（CP14.0%、Lys0.48%、Lys/CP：0.034）、試験②（CP15.0%、Lys0.48%、Lys/CP：0.032）にアミノ酸比率を調整した。調査項目は、発育調査（一日増体重、飼料要求率）、枝肉調査（枝肉歩留、背脂肪厚）、肉質調査（甘とろ豚肉品質基準：剪断力価、保水力、脂肪融点、オレイン酸比率値、筋肉内脂肪値）、食味官能評価（肉のうま味、脂肪のうま味、脂肪の口溶け、やわらかさ、ジューシー性、総合評価）を実施した。

【結果】一日増体重は、慣行0.68kg、試験①0.76kg、試験②0.75kgと試験区は増加したものの試験区間に有意差は認められなかった。飼料要求率、枝肉調査における枝肉歩留、背脂肪厚ともに、各試験区に差はなかった。肉品質基準5項目は、試験①②区とも全項目基準値を満たし愛媛甘とろ豚の肉品質に適合する結果となった。食味官能評価では、総合評価をはじめ各評価項目に差はないことから、試験飼料を用いても慣行飼料の食味と遜色ない結果が得られた。

【今後の取り組み】CP含量とLys比率を調整した飼料を給与することにより、甘とろ豚の発育性向上が期待できる。さらに、枝肉歩留や背脂肪厚に影響を与えず肉品質基準値を満たすなど良質な豚肉生産が確認できたことから、今回の試験飼料は甘とろ豚生産の新たな専用飼料として有用である。今後、試験飼料のうち生産性や価格等を総合的に判断して飼料を選択し、当該飼料による農家実証試験を通じ、新たな専用飼料を選定する計画である。

畜種：豚、分類：畜産技術、キーワード：アミノ酸比率法、愛媛甘とろ豚